

(日本経済学会発表要旨)

何が人を幸せにするか？

経済的・社会的諸要因そして倫理の役割復活*

岡部 光明

(明治学院大学)

【概要】

豊かさを測るため、これまで経済的尺度（経済成長率や一人あたり GDP）が重視されたが、近年その不十分さが強く意識されるに伴って「幸福」についての関心が上昇し、関連研究も増加している。本稿は、経済学的視点のほか、思想史、倫理学、心理学、脳科学などの知見も取り入れながら考察した試論であり、概略次の主張をしている。

①幸福を考える場合、その深さや継続性に着目しつつ、a) 気持ち良い生活 (pleasant life)、b) 良い生活 (good life)、c) 意義深い人生 (meaningful life ; eudaimonia) の3つに区分するのが適当である。②このうち c) を支える要素として自律性、自信、積極性、人間の絆、人生の目的意識、が重要であり、これらは徳倫理 (virtue ethics) に相当程度関連している。③今後の公共政策運営においては、上記 a) にとどまらず b) や c) に関連する要素も考慮に入れる必要と余地がある。一方、人間のこれらの側面を高めようとする一つの新しい思想もみられ最近注目されている。④幸福とは何かについての探求は、幅広い学際的研究が不可欠であり今後その展開が期待される。

* 本稿の全文はウェブサイト<<http://hdl.handle.net/10723/2559>>からダウンロード可能である。